



2023年6月26日

各 位

会 社 名 トレイダーズホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 金丸 貴行
(東証スタンダード市場・コード 8704)
問合せ先 常務取締役 新妻 正幸
(TEL 03-6736-9850 (代表))

2023年3月期通期決算 質疑応答集

この質疑応答集は、2023年5月15日(月)に発表した2023年3月期決算に関して、発表日以降に株主・投資家などの方々からいただいたご質問及びお問い合わせについて、当社の回答をまとめたものです。皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

Q1. 預り資産と収益の関係について教えてください。

A1. 預り資産とは FX 取引を行う際にお客様から預けていただく現金の預託証拠金のことになります。その預託証拠金を基に FX 取引が行われますので、預り資産の増加は、お客様の取引量が増加する大きな要因の一つであり、間接的に当社の収益機会にプラス材料となります。

つまり、預り資産は、将来の収益を生み出す待機注文の大きさと同義であり、将来の収益の先行指標となります。預り資産が積み上がることで、相場が大きく動いた時には、取引量の増加に伴って収益も大きくなる一方、相場の動きが少ない状況の時でも、減収となる影響が緩和されます。

そのため、預り資産は FX 取引業者の規模を比較する上での指標およびベンチマークとなっており、当社はこの預り資産残高を 2024 年 3 月期中に 1,000 億円まで積み上げ、業界第 2 位グループに入ることを目標に今期様々な施策を行ってまいります。

Q2. 2019 年以降預り資産が大きく伸びていますが、その要因を教えてください。

A2. 2015 年にシステム会社である株式会社 Nextop. Asia (現 株式会社 FleGrowth) をグループに組み入れました。システム会社がグループ内にあることで、金融サービス事業におけるお客様からのご要望や改善施策等のニーズを、即時に取引システムへ反映したりサービスリリースまでの期間を短縮することが可能となり、より細やかな顧客ニーズを反映したサービスの提供が可能となりました。また、システムが内製化されたことで従前外部へ支払っていた多額のシステム関連費用の削減が実現し、その費用をマーケティングコストに費やすことが可能となり、新規顧客の獲得に貢献しました。

同社をグループ化した後は、システムのリプレイス等の準備期間が必要でしたが、2019 年からはその効果が発現し、順調に預り資産を伸ばさせ 2023 年 5 月末時点では 843 億円となっております。

Q3. CVC ファンドによる投資先はどのような企業をターゲットにしているのか。

A3. CVC ファンドによる投資先のターゲットとしましては、グローバルに当社の成長に資する Fintech 領域の企業を主な対象としております。当社の事業領域である金融とシステムに親和性の高い Fintech 企業やスタートアップ企業等に投資を行い、財務リターンはもちろんのこと、将来的には協業等により事業シナジーを生み出し、新たな事業領域を展開していきたいと考えております。

Q4. 配当方針を制定し、DOE（連結純資産配当率）4%を目安に年2回の配当を行っていくとのことだが、中間配当金が8円で予定されている。2023年3月期の配当は17円であるが、2024年3月期の年間配当金も同額の17円と仮定した場合、期末配当金は9円となると考えていいのか。

A4. ご認識の通り、2024年3月期の年間配当金額を17円と仮定した場合には、中間配当金予定額8円を差し引き、期末配当金は9円ということになります。

ただし、当社は2024年3月期の当期純利益は30億円を予想しており、想定通りに利益を得ることができた場合、DOEの計算基礎である連結純資産も増加していくため、未定としております期末配当金についても前期と比べ増額する可能性もあります。

每期継続して利益を創出することで純資産を着実に積み上げ、株主の皆様にも長期継続して増配を行ってまいりたいと考えております。

以上